

■資料－1 大学改革推進等補助金の実績報告書(平成 28 年度)

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>本補助事業は、事業協働地域(広島広域都市圏及び尾道市)の課題である人口流出を観光資源の活用によって改善することを目指し、全学共通系科目及び学部専門科目を体系的に再編成し、地域の課題解決に資する能力を養成する教育カリキュラムを実施することで、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的としている。</p> <p>本補助事業の本年度の目的は、COC+教育カリキュラムなど、事業を実際に開始することで成果を挙げていくと共に、次年度以降に実施を予定している事業の準備を進めることである。まず、教育カリキュラムについては、平成 28 年度入学生から新たに設定される「広島科目」の講義(新規授業科目「広島観光学」、および「広島の産業と技術」、「ひろしま論」などの既存授業科目)を開始する。また、次年度から新規に開講される「地域課題演習」、「地域再生論入門」、「地域再生論」、「観光情報学」の実施準備を行う。COC+参加大学間でのCOC+教育カリキュラムに関する単位互換制度を検討する。観光関連データベースに関しては、事業協働機関の自治体、企業等から観光関連データを幅広く収集してデータベースに入力すると共に、地域の観光関連事業の関連性と連携可能性の調査・検討に観光関連データベースを活用する。アートプロジェクトについては、宮島の拠点を整備すると共に、COC+参加大学とも連携して観光振興を目指したアートプロジェクトを実施する。また、地域貢献と観光振興を目指した教育研究事業として学内特定研究費「COC+研究」を学内公募し、研究を開始する。さらに、「市政貢献プロジェクト」「社会連携プロジェクト」「市大生チャレンジ事業」において「COC+プロジェクト」を学内公募し、プロジェクトを実施する。COC+事業協働地域協議会、COC+教育プログラム開発委員会を開催すると共に、ホームページの充実やニュースレターの発行等により、本事業の事業協働地域内での一層の浸透を図る。</p>	<p>本事業の平成 28 年度の取り組みは、前年度にスタートした各事業項目を本格的に具体化していくとともに、事業の安定性や発展性を期して、次年度への準備・検討を行うことである。</p> <p>まず、教育カリキュラムについては、新たに設定した「広島科目」の新規科目の「広島観光学」及び内容を改訂した既存2科目をいずれも後期に開講した。また、平成 29 年度の「地域課題演習」について、対象地域内 10 か所での演習実施に向けた準備を行った。</p> <p>参加校間の共通カリキュラムについて、平成 29 年 1 月に単位互換協定を締結し、平成 29 年度において参加校の地域志向科目 17 科目の履修が可能となった。</p> <p>本学の全教職員を対象にしたFD研修を 2 回実施し(10 月、3 月)、特に 2 回目については参加校にも出席を呼び掛けて実施した。</p> <p>COC+フォーラムを平成 29 年 1 月に実施し、事業協働機関及び一般を含め 174 名の参加があった。</p> <p>参加企業・自治体へのインターンシップについては、50 名の受け入れが実現した。また、事業協働機関(中国経済連合会)により、インターンシップを活用した学生の地元定着についての研究会を開始した。</p> <p>観光関連データベースについては、7 月までにシステム本体の試験運用を行い、8月に必要な改修を実施するとともに、データの収集・登録に努め、平成 28 年度末現在で約 15 万件を登録した。また、地域の既存の観光関連事業との関連性の調査や連携について、広島市、尾道市、岩国市を対象として協議・検討を進めた。</p> <p>新たに学内資金による関連の研究教育を開始し、COC+特定研究 3 件、社会連携プロジェクト 5 件、市大生チャレンジ事業 4 件を採択し、実施した。</p> <p>廿日市市宮島の町家建築を一部改修し、平成 28 年 10 月に「広島市立大学COC+宮島教育研究施設」(通称、サテライトハウス宮島)を開設した。</p> <p>芸術学部を中心とした様々な内容のアートプロジェクトを宮島及び広島市内中心部において実施するとともに、平成 29 年度のアートプロジェクトについて、教員、学生約 100 名が参加し、地域を増やして実施する計画を作成した。</p> <p>参加校による観光や地域振興をテーマとした8つの教育研究事業を実施した。</p> <p>ニュースレターを 3 回(7 月、1 月、3 月)発行し、ホームページの発信を開始(6 月)して広報を行った。</p> <p>事業協働協議会を平成 29 年 1 月 24 日に開催し、37 機関 65 名の参加により事業の進捗状況等について報告や意見交換を行った。</p> <p>推進体制の整備として、平成 28 年度に新たに 4 名のCOC+担当の特任教員を採用し、平成 27 年度からの継続雇用教員も含めて 6 名の体制とした。</p> <p>COC+外部評価委員会を平成 28 年 7 月 25 日に開催し、平成 27 年度の事業の評価を受けた。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>① 4月～3月 平成27年度に策定したCOC+教育プログラム「広島を知る」科目を実施する。また平成29年度開講の「広島を感じる」科目「地域課題演習」や「広島を問う」科目「地域再生論」等の新規科目の担当教員の決定、シラバス作成等の開講準備を行う。</p> <p>「広島を知る」科目の3科目を実施し、延べ720名の受講があった。(「ひろしま論」のアンケート結果では地域に対する関心が「非常に高まった」、「関心が高まった」とした学生が合わせて約70%となった。)</p> <p>平成29年度の「広島を知る」「広島を感じる」の新規科目2科目について開設準備を行った。</p> <p>平成29年度から地域貢献特定プログラムを9科目追加する検討を行った。</p>	<p>本COC+の教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムは、地域志向型科目として「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において学習・経験できるよう編成している。</p> <p>平成28年度は、新たに設定した広島科目「広島を知る」科目の講義(新規科目の「広島の観光学」は対象地域内25市町に調査訪問し構成、既存科目である「ひろしま論」「広島の産業と技術」は内容を改訂)を開講した。この3科目には720名(延べ数)の学生が受講し、このうち受講生が最も多かった「ひろしま論」の履修後のアンケートでは、地域に対する関心が「非常に高まった」、「関心が高まった」とした学生が合わせて約70%となり、地域志向マインドの醸成に一定の効果があった。</p> <p>平成29年度からの新規科目である「広島を知る」科目の「地域再生論入門」(近隣の地域再生の最新事例を収集)、「広島を感じる」科目の「地域課題演習」(対象地域内に10か所の演習テーマ地を設定)などの開講準備を行った。</p> <p>また、平成29年度から地域貢献特定プログラムの科目を9科目追加・拡充することとし、その検討・準備を行った。</p>
<p>② 5月～12月 COC+教育プログラム実施専門委員会(申請大学)、COC+教育プログラム開発委員会ワーキング会議(申請大学、参加大学)、COC+教育プログラム開発委員会(申請大学、参加大学、自治体、経済団体・企業間)において、地域貢献に関連するカリキュラムについて情報交換し、共通カリキュラムを実現するための単位互換制度や講師派遣等の実施について協議する。</p> <p>平成29年1月に参加校9校による単位互換に関する協定書を締結した。</p> <p>平成29年度の単位互換の科目提供は6校、17科目で実施することとなった。</p>	<p>COC+教育プログラムのカリキュラムの充実を図るため、参加校間での単位互換制度を設けるため、左記の3つの会議を開催し協議を行った。</p> <p>その結果、参加校が持つ地域志向科目について、遠隔講義システムの使用が可能な科目や、集中講義形式での実施が可能な科目を中心として提供することとし、平成29年1月に「COC+事業参加大学間の単位互換に関する協定書」を締結した。これに基づき、平成29年度からの実施は、6校から提供する17科目により単位互換を行う態勢を整え、学生の履修機会の拡大に努めた。</p> <p>また、参加校から本学への講師派遣についても調整した(平成29年度に本学で開講する「観光情報学」への派遣)。</p>
<p>③ 5、10月 本学の全学教職員を対象とした本事業の実施に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)として、全学COC+研修会(2回)の開催</p> <p>第1回は平成28年10月26日に実施し、98名の参加があった。</p> <p>第2回は平成29年3月6日に実施し、79名の参加があった。</p>	<p>全学研修会の開催により、学内でのCOC+の事業推進への理解促進や気運の醸成を図った。</p> <p>第1回は平成28年10月26日に実施。内容は「200万人都市圏構想の実現に向けて」(講師は広島市企画調整部長)、及び「COC+の実施状況について」(講師はCOC+担当コーディネーター)。参加者は98名。第2回は平成29年3月6日に、参加校にも呼び掛けて実施。内容は「大学が地域といかに関わるかー広島修道大学の地域志向教育プログラムの実践から」(講師は広島修道大学三浦浩之教授)。参加者は79名(参加3大学の5名を含む)であった。</p>
<p>④ 12月 COC+参加大学との共催により、COC+シンポジウムの開催</p> <p>平成29年1月24日に開催し、174名の参加があった。</p>	<p>COC+フォーラムを平成29年1月24日に開催した。内容は「神山発！日本の田舎をステキに変える一人が人を呼ぶ地域資源の活かし方」(講師はNPO法人グリーンバレー理事長大南信也氏)、及び「基町プロジェクトー創造的な文化芸術で地域活性化を目指す」(本学芸術学部講師からの報告)。参加者は事業協働機関及び一般を含め174名(平成27年度は約220名)であった。</p>
<p>⑤ 8月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップ開始</p> <p>インターンシップの実施は50名、受け入れを表明した参加企業・自治体は70団体であった。</p>	<p>参加企業・自治体へのインターンシップについては、平成28年9月末時点において、50名(平成27年度44名)であった。また、本学が平成28年4月末から5月にかけて実施したインターンシップの受け入れの依頼に対して、受け入れる旨の回答があったCOC+参加企業・自治体の数は70(平成27年度は58)であった。また、平成28年10月から事業協働機関である中国経済連合会の人材育成専門部会に本学教員を委員として派遣し、地元企業におけるインターンシップを活用した学生の地元定着意識の醸成を図るための方策について、企業関係者と研究会を始めた。</p>
<p>⑥ 4月～3月 平成27年度に構築した観光関連データベースの試験的な運用</p> <p>5月～7月に運用試験を行い、8月に改修作業を、2・3月に機能拡張を行った。</p>	<p>観光関連データベースの試験的な運用については、観光関連データベースワーキンググループでの協議を踏まえ、平成27年度の構築時に登録したサンプルデータや平成28年度の初期に登録した観光関連データを利用し、データベース本体の稼働・運用試験を行い課題の洗い出しを実施した(5月～7月)。抽出した課題や懸念項目について、改修作業を実施し(8月)、更なる機能拡張(2月、3月)や、平成29年度の公開運用に向けた態勢を整えた。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>⑦ 4月～3月 事業協働機関(参加大学、自治体、企業等)からの観光関連データの収集とデータベースへの追加</p> <p>平成28年度末までに約15万件の観光関連データの登録を行った。</p>	<p>観光関連データの収集・追加登録については、参加各市町の観光パンフレット類を含む紙媒体の電子データやSNS情報を含む各種データの追加登録を進め、平成28年度末現在で、約15万件の観光関連データの登録が完了している。その内訳は、動画やブログ、ツイッターを含めたSNS関連データが約14万件で本データベースの中核となっているほか、画像やイベントデータ等を含めた観光施設データ等が約1万件となっている。</p>
<p>⑧ 4月～3月 観光関連データベースを活用した地域の既存の観光関連事業の関連性調査と連携可能性の検討</p> <p>参加自治体である広島市、尾道市、岩国市の3市の観光関連事業との連携を検討した。</p>	<p>観光関連事業の関連性調査及び連携可能性の検討については、観光関連データベースワーキンググループにおいて参加自治体を実施している観光関連事業について協議し、平成28年度は、広島市、尾道市及び岩国市を対象として調査・検討を行い、連携可能(提供を受けることが可能)な素材については収集、活用に向けて協議等を行った。具体的な対象事業は、広島市で企画運営している広島フリーWiFiや、ひろしまピースクル(レンタサイクル)の活用、尾道市しまなみ海道のレンタサイクルを使用するサイクリストの行動情報のサンプリング収集、また岩国市における観光客の行動に関する演習での活用やデータ収集となっている。これらの検討を踏まえて、平成29年度以降も対象地域と連携して事業を継続していく予定である。</p>
<p>⑨ 4月～3月 学内特定研究費(大学資金)「COC+特定研究」の選考(6月)、研究実施(6月～3月)</p> <p>COC+特定研究を3件、6月に採択し、6月から3月にかけて実施した。</p>	<p>学内特定研究(大学資金)に、平成28年度から「COC+特定研究」枠を設け、前年度の3月に募集を行い、6月に3件を採択し、6月～3月にかけて実施した。研究内容は、瀬戸内の観光振興とインバウンドを目指したプロジェクト、(観光地の)体験型スポットの自動検出、アートプロジェクトの実施と人材育成のための基盤研究。実施された研究は、アートプロジェクトまたは平成29年度の地域課題演習に活用できるものとなっている。</p>
<p>⑩ 4月～3月 学内「市政貢献プロジェクト」「社会連携プロジェクト」「市大生チャレンジ事業」において「COC+プロジェクト」の公募(4月)・選考(6月)、プロジェクト実施(6月～3月)</p> <p>社会連携プロジェクトを5件、市大生チャレンジ事業を4件、6月に採択し、6月から3月にかけて実施した。</p>	<p>平成28年度から社会連携プロジェクトと市政貢献プロジェクトを統合し、社会連携プロジェクト事業として実施した。4月に募集を行い、社会連携プロジェクト(COC+関連5件 例:厳島八景に関する教育事業)、市大生チャレンジ事業(COC+関連4件 例:地域商店街活性化への貢献)の取り組みを6月に採択し、6月～3月にかけてプロジェクトを実施した。採択したプロジェクトには、アートプロジェクトに関わる取組や、平成29年度の地域課題演習につながる取組があった。</p>
<p>⑪ 4月～3月 宮島へのCOC+教育研究拠点の開設・運営。 4月～3月 アートプロジェクト及び参加校との協働研究事業の実施(宮島、市内中心部、観光船デザイン)</p> <p>10月に宮島での活動拠点として「広島市立大学COC+宮島教育研究施設」(通称、サテライトハウス宮島)を開設した。 いずれも4月～3月に、アートプロジェクトを宮島において5件、広島市内中心部において2件実施し、参加校による協働研究事業を8件実施した。</p>	<p>廿日市市宮島町の歴史のある町家建築を一部改装し、本学と参加校の学生・教員が宮島での教育研究活動を行う施設として「広島市立大学COC+宮島教育研究施設(通称、サテライトハウス宮島)を平成28年10月に開設した。本学芸術学部による宮島をテーマにした作品制作や展示をはじめ、講座やセミナーの開催、フィールドワークの拠点など、様々な活動において活用を進める。</p> <p>アートプロジェクトについては、まず宮島においては5件を実施。本学芸術学部の学生が廿日市市の宮島伝統産業会館と連携し、伝統工芸である轆轤の後継者育成プロジェクトに取り組み、技術の習得を図るとともに、「サテライトハウス宮島」において、宮島の観光マップ「宮島双六」の制作に向けた木版画のワークショップを開催した。また、宮島の伝統産業に関わる職人の技術等を記録する「宮島アーカイブプロジェクト」の実施や、宮島をテーマとした日本画や染織作品の創作に向けた現地調査等も開始した。</p> <p>広島市内中心部では2件を実施。「基町プロジェクト」では、活動拠点「M98」を中心に、地域を活性化するためのプログラムを開催した。(例、もとまちカフェの実施、創作スタジオ「M98<make>」の設置、地域交流スペース「M98<eat>」の設置、基町昔の写真展2やグローバルキッチンプロジェクトの実施など。)特に、学生が主体となって企画する「もとまちカフェ」、食を通じた地域交流「グローバルキッチンプロジェクト」においては、それぞれ参加校である広島修道大学と安田女子大学と連携して実施した。また、「観光船と水辺のデザインプロジェクト」では、広島市内中心部の水辺の魅力づくりとして、民間企業と協働で進めた観光船について、芸術学部によるデザイン案を提供した。</p> <p>参加校との協働研究事業としては、観光や地域振興を中心とするテーマの事業を参加校8校において各校1件実施した(テーマ例、大型クルーズ客船への対応、学生による宮島地域資源の再発見、中山間地域と島しょ部の交流など)。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>⑫ 10月～12月 本学が平成 29 年度に開催するアートプロジェクト実施計画の検討・作成</p>	<p>COC+事業の先導的教育研究事業として、本学の特色である芸術学部の美術学科、デザイン工芸学科を合わせた全10専攻の教員、学生約100名が参加するアートプロジェクトの実施計画を作成した。</p> <p>各専攻の教員、学生は、COC+事業協働地域の中で地域資源を活用したアートプロジェクトを企画し、瀬戸内エリアでは宮島、似島、尾道、広島都市部エリアでは中区基町地区、また、中山間エリアでは北広島町、安芸太田町を実施場所としてプロジェクトに取り組む。</p>
<p>⑬ 6月、10月、2月 事業広報のためニュースレターを発行(3回)。平成 27 年度に開設したホームページの更新。</p> <p>ニュースレターを7月、1月、3月に発行した。 ホームページによる情報提供を6月から開始した。</p>	<p>ニュースレターの発行は、平成 28 年7月に第 3 号(COC+ホームページの紹介、観光施策の動向調査等)、平成 29 年 1 月に第 4 号(基町プロジェクト、観光関連データベース、宮島拠点施設)、平成 29 年 3 月に第 5 号(地域課題演習の履修促進等)をA4 版4ページで発行し、配布した(各 3000 部)。</p> <p>COC+ホームページについては、平成 27 年度末に構築したものを、内部での試行期間を経て、平成 28 年 6 月 21 日から公開を開始し、内容の充実に努めた。</p>
<p>⑭ 7月 COC+事業協働地域協議会の開催(1回)</p> <p>平成29年1月24日に開催し、参加は 37 の協働機関から 65 名であった。</p>	<p>平成 29 年 1 月 24 日に開催した。協議内容は、平成 28 年度事業の実施状況、平成 29 年度の事業計画案、平成 27 年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は 37 の協働機関から 65 名(平成 27 年度は54の協働機関から 89 名)であった。</p>
<p>⑮ 4月 COC+推進コーディネーター2名(特任教授)、事業協働地域調整担当特任准教授 1 名、教育・研究担当特任助教 1 名を新規採用(選考は平成 28 年 3 月末までに完了予定)。平成 27 年度に採用した観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を継続雇用。</p> <p>4月に3名、8月に1名採用し、前年度からの継続雇用も含めて6名とした。</p>	<p>COC+推進コーディネーター(特任教授)2 名及び事業協働地域調整担当 1 名を、平成 28 年4月から雇用し、教育研究担当特任助教1名を平成 28 年 8 月に雇用した。</p> <p>また、観光関連データベース担当特任助教 1 名、アートプロジェクト担当特任助教 1 名を継続雇用し、全体で 6 名の推進体制とした。</p>
<p>⑯ 8月 COC+評価委員会を開催し、平成 27 年度事業の評価と報告書等の作成。</p> <p>平成28年7月25日に開催し、評価結果は、「計画に沿った実績となっている」とされた。</p>	<p>COC+外部評価委員会(委員長は神戸市外国語大学船山仲他理事長・学長、ほか委員 4 名)を、平成 28 年 7 月 25 日に開催した。評価結果は、「計画に沿った実績となっている」とされた。</p> <p>また、平成 27 年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。</p>

■資料－2 事業費の状況

(円)

	平成 27 年度						平成 28 年度		
	交付決定に係る補助 対象経費の額			実支出額	交付決定に係る補助 対象経費の額				
	補助金交付額	自己負担額	補助金確定額		自己負担額	補助金交付額	自己負担額		
広島市立大学	52,513,000	52,513,000	0	41,846,279	41,846,279	0	51,868,000	46,798,000	5,070,000
広島大学	118,000	118,000	0	118,000	118,000	0	753,000	753,000	0
尾道市立大学	250,000	250,000	0	250,657	250,000	657	982,000	960,000	22,000
広島経済大学	118,000	118,000	0	116,000	116,000	0	898,000	898,000	0
広島工業大学	145,000	145,000	0	145,000	145,000	0	976,000	816,000	160,000
広島国際大学	148,000	148,000	0	148,000	148,000	0	470,000	470,000	0
広島修道大学							503,000	503,000	0
安田女子大学	115,000	115,000	0	115,000	115,000	0	0	0	0
広島商船高等専門学校							1,001,000	1,001,000	0
合計	53,407,000	53,407,000	0	42,738,936	42,738,279	657	57,451,000	52,199,000	5,252,000

※文部科学省へ提出した交付申請書および実績報告書をもとに作成。

■資料-3 参加校による協働研究事業の実施結果（平成28年度・概要）

学校名	広島大学
事業名 (プロジェクト名)	大型クルーズ客船の寄港への対応と地域経済への影響について
実施対象地域	市町名: 広島市(地区名: 五日市, 宇品)、福岡市
事業概要	平成28年度に広島港五日市岸壁への寄港が予定されている大型クルーズ客船の乗客に対するアンケート調査を行い、広島滞在中の行動、広島に対する評価、受入態勢に係る評価や課題等を把握することによって今後の対応を検討するための基礎的な知見を得る。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	広島県 土木建築局 港湾振興課
実施内容 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> 9月: アンケート作成作業(英語, 日本語, 中国語) 10月16日: 宇品港でアンケート実施(船名: L' AUSTRAL), 院生6人, 教員1人, 51枚回収 10月21日: 五日市港でアンケート実施(船名: QUANTUM OF THE SEAS), 院生10人, 93枚回収 12月15日: 福岡市港湾空港局でクルーズ受け入れ体制に関する聞き取り調査, 教員1人, 院生1人 <p>本事業の補助金を使用していないため、参考ではあるが、その後も調査を続け、合計323枚のアンケートを回収することが出来た。今後も同じ調査を広島県と協力して継続する予定である。</p>
実施により 得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域に対する効果: 2015年度に実施した調査に引き続き、クルーズ客の特性、広島への期待、広島訪問の評価、消費行動などについて明らかにすることができた。広島県を始め県内の行政機関や観光産業が参考になる資料となる。 学生に対する効果: 博士課程前期の院生が先行研究を参考にし、自主的にアンケートを作成した。また、広島県から得た情報を元に計画を立て、アンケートを実施したことにより、現地調査の計画と実施について学んだ。データ入力も行い、今後そのデータを利用し、基本的な統計分析(単純統計、クロス集計、統計検定)を学ぶ予定である。 アンケート結果のまとめ: 引き続き調査を行ったため、詳しい分析を今後行う予定であるが、本研究費で実施した2回のアンケートの単純統計結果は別紙の通りである。

実施経費	182,050 円
実施・成果に係る 印刷物等	広島港クルーズ客に対するアンケート(調査表: 日本語、中国語、英語)

担当教員	学部・職名・氏名	大学院総合科学研究科 教授 フンク カロリン
事務担当者	所属・職名・氏名	社会連携グループ・グループ員・柳ヶ瀬 祐規
	電話番号	082-424-7977
	Fax	082-424-6189
	e-mail	syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

実施内容の写真

左上: クルーズ客にアンケートを採るスタッフ(五日市)
 右上: 福岡市のクルーズセンター
 右下: 福岡市のクルーズセンター内



学校名	尾道市立大学
事業名 (プロジェクト名)	尾道市技「囲碁」関連科目の創設事業
実施対象地域	市町名 尾道市 (地区名)
事業概要	尾道市の市技である囲碁関連科目を新設し、講義を通じて、学生と地域関係者との交流を促進し、イベント開催等関連事業の活性化及び参加学生の地域内定着率の向上に取り組むものである。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	尾道市
実施内容 (実績)	4月 尾道学入門(囲碁関連講義)公開講義として実施 参加者 学生 264 名、一般 50 名 7月 囲碁関連科目「地域の伝統文化(囲碁)」の新設及び担当講師を決定 12月 囲碁関連科目「地域の伝統文化(囲碁)」実施に向けた物品購入等に取り組む。 2月 囲碁関連科目「地域の伝統文化(囲碁)」実施に向けた物品の納品 3月 囲碁関連科目「地域の伝統文化(囲碁)」実施に向けた尾道市内関連団体に支援を要請し、内諾を得る。
実施により 得られた成果	尾道学入門の公開講義により、地域に対しては尾道市の市技である囲碁の普及に貢献した。他方、学生に対しては、囲碁を通じ、尾道というまちをより深く理解するための一助となった。 また、平成29年度から開講する「地域の伝統文化(囲碁)」の実施環境を整え、学生に地域のことをより身近なものとして捉えてもらうための準備を行った。
実施経費	982,279 円
実施・成果に係る 印刷物等	

担当教員	学部・職名・氏名	経済情報学部 教授 藤岩 秀樹
事務担当者	所属・職名・氏名	企画広報室 主任 森下 育哉
	電話番号	0848-22-8379
	Fax	0848-22-5460
	e-mail	jimukyok@onomichi-u.ac.jp

実施内容の写真



尾道学入門講義風景



物品購入



尾道学入門講義風景



物品を教室横倉庫に配置

学校名	広島経済大学
事業名 (プロジェクト名)	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 (学生による宮島観光資源の再発見と発信および担当教員による瀬戸内海地域の視察)
実施対象地域	市町名 広島県廿日市市宮島町(地区名 広島県廿日市市宮島町) 香川県香川郡直島町 (地区名 香川県香川郡直島町)
事業概要	広島経済大学 興動館 宮島の魅力を発信し隊学生プロジェクト 本プロジェクトは、世界遺産である宮島の隠れた魅力を「学生目線」、「若者目線」で発掘し、それを発信することを活動目的としている。平成 28 年度は現地での観光資源の視察、取材を中心に活動のネットワークを広げた。 平成 28 年11月に NPO 宮島ネットワークと協力して、「宮島今むかし写真展&宮島伝統工芸作品展」を開催。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	NPO 法人 宮島ネットワーク
実施内容 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年6月から10月にかけて計 6 回の現地視察及び取材を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ◆商店街、もみじ谷、歴史資料館、水羽荘など 視察および取材の成果として、NPO 宮島ネットワークと協力して、「宮島今むかし写真展&宮島伝統工芸作品展」を開催。学生たちが撮影した宮島の現在の写真を展示。当日は、学生による写真の紹介や宮島の魅力をいかした企画案も展示。 <ul style="list-style-type: none"> ◆期間:平成 28 年11月 23 日(水・祝)~27 日(日)の 5 日間 加えて、上記の 5 日間で学生たちが作成した冊子(パンフレット)を現地で観光客を中心に配布した。以降は掲載店に設置し、観光客に提供している。 <ul style="list-style-type: none"> ◆フリーペーパーとして、2,000 部を発行 ◆中国新聞 平成 29 年4月 13 日付 25 面に掲載 次年度以降に向けて、担当教員による瀬戸内海地域の現地調査を実施(香川県香川郡直島町)。 <ul style="list-style-type: none"> ◆日程:平成 29 年 3 月 26 日(日) ◆視察地:家プロジェクト ANDO MUSEUM・香川大学直島地域活性化プロジェクト「和カフェぐう」・地中美術館
実施により 得られた成果	<p>①宮島の魅力を発信し隊学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町)</p> <p>この度は、NPO 法人 宮島ネットワークと協力して、「宮島今むかし写真展&宮島伝統工芸作品展」に参画した。写真展は本学成風館にて、2016 年11月 23 日(水・祝)~11月 27 日(日)で開催。</p> <p>学生たちは写真展の準備に一から携わり、また自分たちの視点でフリーペーパーを作成・編集・発行したことで、当該地域の歴史を学びつつ、街づくりの在り方や観光地としての活用方法について、学びを深めた。</p>

	<p>写真や展示物の説明をしながら、観光客と会話をすることで、宮島の魅力発信に向けて、さらに意識が高まった様子であった。平成 29 年度に発行予定である『宮島なび Vol.2』、『同 Vol.3』の内容に期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「宮島今むかし写真展&宮島伝統工芸作品展」来場者数について <ul style="list-style-type: none"> ・5 日間合計:日本人観光客 994 人(男性 490 人、女性 504 人) 外国人観光客 67 人(男性 31 人、女性 36 人) ②担当教員による瀬戸内海地域の現地調査(香川県香川郡直島町) <ul style="list-style-type: none"> 今回は、島嶼部地域の活性化・雇用促進事例の典型例として香川県直島を訪問し、離島の再生をはかるためアートの視点を取り入れて作られた各スポットを視察した。 ・「家プロジェクト」では、アーティストが家の空間そのものを作品化するアートプロジェクトによって古屋の再生を図っていた。報告者がゼミやプロジェクトで関わる、広島県廿日市市宮島においても、近年空き家の問題は深刻化しつつあり、その解決に資する視点を学んだ。 ・「地中美術館」や「ANDO MUSEUM」は、「目玉」の少なかった直島にとって、「ベネッセハウス」とともに集客に貢献するブランドとなっていることがわかった。 ・香川大学直島地域活性化プロジェクトによる学生経営の「和カフェぐう」を訪れた。このカフェは、10 年前、当時あまり観光客向けの飲食店がなかった直島で開店した(土・日・祝日営業)。現在では、直島において、多くのレストラン・カフェが誕生しているが、この学生カフェがその起爆剤の 1 つとなったことは間違いない。カフェの現状や運営方法、地域との関わり方について懇談し、多くの示唆を得た。
実施経費	483,292 円
実施・成果に係る 印刷物等	宮島の魅力をギュッと濃縮! 宮島なび~Vol.1 中国新聞 平成 29 年4月 13 日付 25 面(広経大生グループが冊子 リピーターの増加狙う)

担当教員	学部・職名・氏名	経済学部 教授 濱田 敏彦
事務担当者	所属・職名・氏名	教育・学習支援センター・主任・西國 真一(サイゴク シンイチ)
	電話番号	082-871-9345
	Fax	082-871-1021
	e-mail	sn-sai@hue.ac.jp

実施内容の写真

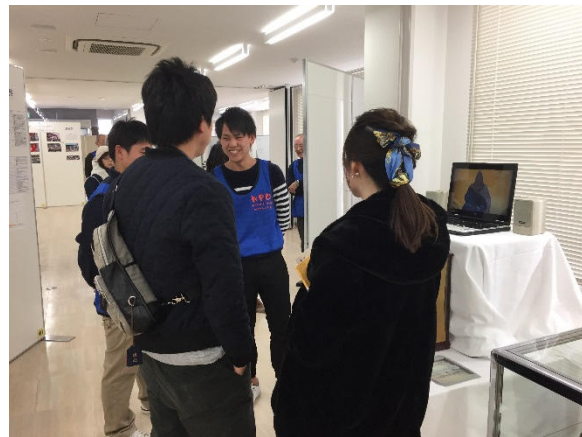
※撮影日:2016年11月26日(土)



↑ 広島経済大学成風館入口(宮島)



↑ NPO 法人宮島ネットワークの方々(受付)



↑ 館内で展示物の説明をする学生



↑ 学生たちが作成した冊子を手にする観光客

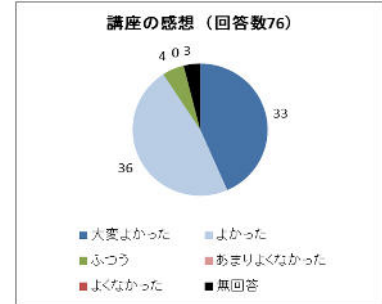


↑ 写真展の様子①



↑ 写真展の様子②

学校名	広島工業大学
事業名 (プロジェクト名)	宮島・土曜講座
実施対象地域	市町名 廿日市市 (地区名)
事業概要	広島工業大学プロジェクト研究センター「地域保全まちづくり研究センター」の研究成果の発信を核として、広島工業大学教員と外部講師により、「まちづくり」に関連する講座を展開する。月 1 回(7月~12月)の講座では、講師による「講話」と、講師及び参加者同士の「対話」を交えて講座テーマの共有と理解を高めていく。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	廿日市市
実施内容 (実績)	<p>第 1 回:7月 16 日(土)13:30~15:30(会場:宮島市民センター)22 名参加 「今後の宮島観光と地域の活性化へ向けて」</p> <p>第 2 回:8月 20 日(土)13:30~15:30(会場:宮島市民センター)11 名参加 「ドイツに学ぶ点(個別事業)も面(地域全体)も幸せになる仕組み レギオナーレ」</p> <p>第 3 回:9月 24 日(土)13:30~16:30(会場:宮島商工会館)58 名参加 「宮島こもん開設 10 周年記念シンポジウム」</p> <p>第 4 回:10月 22 日(土)13:30~15:30(会場:宮島こもん)13 名参加 「世界遺産 20 周年 常若(とこわか)の宮島をめざして」</p> <p>第 5 回:11月 26 日(土)13:30~15:30(会場:宮島こもん)13 名参加 「フランスに学ぶ街並みを支える集合住宅の管理」</p> <p>第 6 回:12月 24 日(土)13:30~16:00(会場:宮島市民センター)16 名参加 「出雲大社・神門通りの歩行環境づくり(13:30~15:30)」 「宮島・土曜講座 2016 を振り返って(15:30~16:00)」</p>
実施により 得られた成果	<p>講座の参加者にアンケートの協力をお願いしたところ 76 名の回答があり、うち講座の内容について「大変よかった」「よかった」に 69 名から回答があった。また、講座に参加した延べ 35 名の本学学生からは、宮島や国内外のまちづくり事例について理解が深まった旨の感想が見られた。さらに、参加した学生から宮島に関する修士論文 1 件・卒業論文 1 件の執筆があり、教育面での成果を得ることができた。</p> <p>なお、第 3 回の講座(記念シンポジウム)では、地元のマスコミに取り上げられ、宮島のまちづくり保存に関する取り組みについて広く情報発信することができたとともに、廿日市市では平成 29 年度から都市計画課に「歴史まちなみ推進係」が新たに設置され、今後本事業がより具体的な活動に繋がっていくものと期待される。</p>



実施経費	1,067,425 円
実施・成果に係る印刷物等	①「宮島・土曜講座 2016」チラシ ②「宮島・土曜講座 2016」報告書

担当教員	学部・職名・氏名	工学部・教授・伊藤 雅
事務担当者	所属・職名・氏名	地域連携推進室・上山 和宏
	電話番号	082-921-4222
	Fax	082-921-8963
	e-mail	c-renkei@it-hiroshima.ac.jp

実施内容の写真

第1回:7月16日(土)13:30~15:30(会場:宮島市民センター)
 テーマ「今後の宮島観光と地域の活性化へ向けて」
 講師:広島経済大学 経済学部 メディアビジネス学科 主任教授 北野 尚人



第2回:8月20日(土)13:30~15:30(会場:宮島市民センター)
 テーマ「ドイツに学ぶ点(個別事業)も面(地域全体)も幸せになる仕組み レギオナーレ」
 講師:福山市立大学 都市経営学部・大学院都市経営学研究科 准教授 太田 尚孝



第3回:9月24日(土)13:30~16:30(会場:宮島商工会館)
 「宮島こもん開設 10周年記念シンポジウム」
 講師:小山工業高等専門学校 前校長・名誉教授 日本イコモス国内委員会・副委員長 苅谷 勇雄



第4回:10月22日(土)13:30~15:30(会場:宮島こもん)
 「世界遺産 20周年 常若(とこわか)の宮島をめざして」
 講師:一般社団法人宮島ネイチャー構想推進協議会(略称:宮島ヴィジョン) 後藤 研一



第5回:11月26日(土)13:30~15:30(会場:宮島こもん)
 「フランスに学ぶ街並みを支える集合住宅の管理」
 講師:岡山大学大学院教育学研究科 講師 関川 華



第6回:12月24日(土)13:30~16:00(会場:宮島市民センター)
 「出雲大社・神門通りの歩行環境づくり(13:30~15:30)」
 講師:株式会社バイタルリード 総合計画部 福井 のり子
 「宮島・土曜講座 2016 を振り返って(15:30~16:00)」広島工業大学 教授 伊藤 雅



学校名	広島国際大学
事業名 (プロジェクト名)	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト
実施対象地域	山県郡安芸太田町四合地区、呉市豊島地区ならびに東広島市黒瀬地区
事業概要	三段峡や島しょ部で観光地として高まりを見せているが、四合地区、豊島地区は、実は高齢化率が非常に高い。これらの地域の住民の“健康づくり”を促進すると共に二つの地区の交流を図ることにより、相乗的な活性化効果をもたらすことを目的とする。また、二つの地区に関する情報発信に益することを目的に既にサロンを実施している広島黒瀬丸山地区との交流も取り入れる。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	安芸太田町・町社協、呉市豊浜市民センター、東広島市社協ならびに黒瀬支所
実施内容 (実績)	<p>平成 27 年度 1 月の話し合いに基づき 3 月に実施して事業がスタートした。 平成 28 年度の事業実施内容は以下の通り。</p> <p><安芸太田町での事業実施内容></p> <p>1.平成 28 年7月 23 日、第 2 回三和サロン開催。3 つの自治会 30 名、町健康づくり課 1 名、社協 1 名、集落支援員 1 名、地域おこし協力隊 1 名、本学教員 1 名、学生 8 名で開催。今回は、双方の関係を構築する意図の元、そうめん流しの準備・食材の調理等を住民・学生とが共同で行った。</p> <p>2.平成 28 年11月 12 日-13 日、第 3 回三和サロンを開催。3 つの自治会から 14 名、社協 1 名、集落支援員 1 名、本学教員 1 名、学生 4 名で開催。自治会から住民の相談に乗って欲しいという要望があり、学生 4 名が住民 12 名の相談を受けた。その後、地区の生活実態の把握と現状における生活課題等についての聞き取り調査を実施。</p> <p>3.平成 29 年 2 月 18 日、第 4 回三和サロンを開催。3 つの自治会から 15 名、社協 1 名、集落支援員 1 名、児童 1 名、本学教員 1 名、学生 5 名、本学職員 1 名で開催。地域の要望もあり、引き続き学生との面談の時間を設けるとともに、その間、順番を待っておられる住民の心身の健康を促すことを目的に、予め購入していた健康促進用具等を用いて交流を図った。</p> <p>加えて、自治会から「地域に伝わる話を題材にした影絵の制作をしたい」との要望を受け、まずはどのような話が伝わっているかの聞き取りを行い、それに沿った形で影絵制作用のシナリオ(案)を作成することとなる。(既にシナリオ(案)を作成し、社協を通じて方言の使い方の検討と、修正を依頼している。</p>

	<p><黒瀬丸山地区でのサロン></p> <p>平成 28 年度はほぼ毎月 1 度、地域住民の参加は平均 10 名、学生は平均5名、本学教員 1 名の参加のもとにサロンを開催している。</p> <p>尚、平成 28 年度においては、豊島の住民へのアプローチは行うことが出来なかった。</p>
実施により 得られた成果	<p>量的な調査を行っていないため、事業実施による住民・学生双方に対する成果を具体的な数値で示すことはできない。</p> <p>ただ、地域住民からの「相談に乗ってほしい」という要望を受けて実施したが、次のサロンの折にも「その後のことについて相談に乗って欲しい」という要請があったことから推察できるように、学生との交流を通じて、少なからず地域住民の“精神的”健康の促進ならびに学生に・住民双方にとっての存在価値の再確認の効果があつたものと考えられる。</p> <p>また、これまで限界集落化している 3 つの集落の住民にとっても、また、黒瀬丸山地区の住民にとっても、“他”の自治体住民との交流を楽しみにし、平成 29 年度11月にはイベントを開催する企画に動き出している。これらのことを鑑みると、本事業実施により住民・学生の双方にとってWHOの言う“健康”を促す効果が見られていると考える。</p>
実施経費	470,000 円
実施・成果に係る 印刷物等	三和サロン【社協だより】 第 142 号 平成 28 年 12月号

担当教員	学部・職名・氏名	医療福祉学部・教授・吉川
事務担当者	所属・職名・氏名	研究支援・社会連携センター 林 賢宏
	電話番号	0823-69-6034
	Fax	0823-70-4931
	e-mail	HAYASHI.Yoshihiro@josho.ac.jp

実施内容の写真

第3回三和サロン



第4回三和サロン



学校名	広島修道大学
事業名 (プロジェクト名)	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 もとまちカフェ
実施対象地域	自治体名 広島市 地区名 中区基町
事業概要	<p>広島市中区と広島市立大学(COC+主催校)がおこなう「基町プロジェクト」の1企画である「もとまちカフェ」に本学も2015年度から協力し、2016年度は共同主催で実施している。</p> <p>基町高層アパートの活性化を目指す「基町プロジェクト」のなかで、「もとまちカフェ」は基町高層アパートの既成概念を取り払い、本来の基町高層アパートのあり方や魅力を体験し知ってもらうこと、住人やコミュニティ(内の人)と基町への来訪者(外の人)をつなぐ架け橋となることを目的に行っているプロジェクトである。広島市立大学芸術学部の学生と広島修道大学地域イノベーションコースの学生有志が参加して、議論を重ね、2016年11月12日(土)に基町高層アパート敷地内(基町ショッピングセンター中央広場)で野外カフェや催し物を運営し、内外をつなぐ「場」作りを行い、来場者にオリジナルメニューを提供した。また、住民との対話会や小規模のプロジェクションマッピングや団地内ツアーを企画した。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	広島市中区役所
実施内容 (実績)	<p>4月～11月 実施に向けて定例会(週1回)</p> <p>6月18日 移動できる屋台型「こくばんカフェ」実施</p> <p>9月7日 イノベーション コミュニティ サロン</p> <p>9月～11月 実施に向けて具体的な企画及び準備</p> <p>11月12日 もとまちカフェ実施(10:00～14:00) 来場者約200名</p> <p>11月～12月 ふりかえり、まとめ、定期イベント準備</p> <p>2月～3月 基町プロジェクトの展示参加</p>
実施により 得られた成果	<p>今年度の目標は、「基町の内の人と外の人をつなぐ」という全体コンセプトのもと、外の人をもっと基町に来る機会を増やそうと広島市立大学の学生と広島修道大学の学生が共同で幾つかのチームに分かれて企画を練って実施した。1回生を中心に検討を始めたため、基町には実際に行ったことがない学生が多く、基町を知るところから始めた。(実際に基町を歩き、他の活動に参加、地域の運動会に参加、及び県立広島大学の学生とも意見交換を行った。)</p> <p>その中で見つけた特徴や課題を自分たちの企画に反映させ、少しずつ形にした。</p>

	<p>高層部にお住いの高齢者の方の中で下層部に降りてくるのが億劫になった方々のために、高層部の大きな踊り場を生かし、小規模の交流会を開く計画を立て、コンパクトでエレベーターにも乗るような交流装置(屋台)を制作し利用することによって、課題解決の一つの可能性を提示することができた。</p> <p>基町プロジェクトの講演会に合わせて、オリジナルのクッキーと飲み物を提供する機会や 2017 年2月から広島市中央図書館で行われた「基町プロジェクト」の展示の中で「もとまちカフェ」も総括的な展示を行い、活動を周知することもでき、次年度に向けての課題として、定期的なアウトプットを行う事、それにより基町への定着について、継続的に取り組むという意識が熟成された。</p> <p>基町高層アパートの皆さんにとっては、珍しい外部からの方々との交流により再度基町高層アパートの特性と前向きな意識を持ってもらうことができた。参加した学生にとっては専門性の異なる大学同士の間での共同作業により、社会における協働を理解するとともに自身の専門性への意識が高まった。また基町高層アパートの抱える地域課題を理解し、その解決のプロセスと自身の専門性をどのように活かすことができるかの一端を理解することができた。</p>
実施経費	511,573 円
実施・成果に係る印刷物等	

担当教員	学部・職名・氏名	地域イノベーション教育担当教員/人間環境学部 講師 木原 一郎
事務担当者	所属・職名・氏名	ひろしま未来協創センター 課長 佐伯美栄子
	電話番号	082-830-1114
	Fax	082-830-1932
	e-mail	m-saeki@js.shudo-u.ac.jp

実施内容の写真



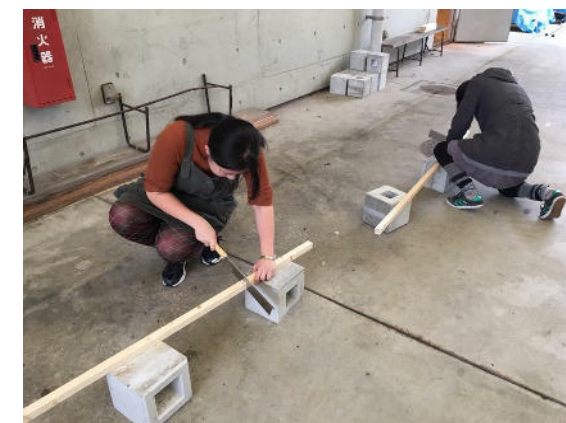
定例会の様子(本学ひろみらエントランススクエア)



定例会の様子(広島市立大学)



イノベーション コミュニティ サロンの様子
(本学ひろみらスタジオ)



お店づくりの様子(広島市立大学)



当日の様子。無料のお茶とお菓子を提供し、地域の方々と交流。(基町ショッピングセンター中央広場)



広島市中央図書館での展示の様子

学校名	安田女子大学
事業名 (プロジェクト名)	基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」への参画
実施対象地域	市町名 広島市 (地区名 広島市中区基町地区)
事業概要	広島市立大学が実施している「基町プロジェクト」の一環で、基町中央商店会内の空き店舗を活用し、「食」関連のイベントを行う「グローバルキッチンプロジェクト」に参画。「食」を通じて、基町地区コミュニティの活性化や新たな交流の場を創出することを目的とする。この「グローバルキッチンプロジェクト」の第5回目として12月17日(土)に、「減塩食」をテーマとして本学家政学部管理栄養学科の教員・学生が料理試食会を実施。実施後に振り返りを行い継続した活動につなげていく。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	
実施内容 (実績)	<p>第5回「グローバルキッチンプロジェクト」を以下の通り実施した。</p> <p>■日時:平成28年12月17日(土)11:30~13:30</p> <p>■メニュー: 牛丼・減塩牛丼・桜だいこん・なめこの味噌汁・絹豆腐のデザート</p> <p>■プログラム: ①通常の牛丼と減塩牛丼の食べ比べ ②減塩食の大切さに関するレクチャー</p> <p>■指導教員:家政学部管理栄養学科 渡邊喜弘准教授 ■協力学生:管理栄養学科 15名 ■参加者:22名 ■実施までの流れ:</p> <p>【11月】 ・広島市立大学と事業についての打ち合わせ ・プロジェクト参加者募集 ・スケジュール案作成</p> <p>【12月】 ・学内説明会実施(12月1日(木)) ・学内実習室で試作(12月10日(土)10:00~13:00)</p>
実施により 得られた成果	<p>「基町プロジェクト」の主要事業のひとつとして立ち上がっている「グローバルキッチンプロジェクト」に、管理栄養学科のある大学として、強みを活かした連携を行うことができたことが、第一の成果である。</p> <p>当日は基町地区の地域の方を中心に、広島市役所の方や広島市立大学の学生など幅広い年代の方に参加いただいた。通常の牛丼と減塩牛丼の食べ比べでは、多くの参加者が減塩牛丼を通常の牛丼だと思われるほど、味にそん色なく、その後</p>

	<p>の渡邊准教授のレクチャーを通して、減塩の必要性を強く認識いただけた。</p> <p>また本企画に協力した学生は、事前の準備から当日の減塩食の調理までを通して、地域の方に自分たちが調理したものを食べていただく喜びを感じたようで、その後のヒアリングでも参加してよかったという声が多く聞かれた。</p> <p>基町地区については、日ごろ学生が立ち寄ることは少ない地域であるが、このプロジェクトを通して、その地域に住む方を身近に感じる機会になり、また地域の方々も学生との会話を楽しまれ、基町地区コミュニティ活性化の観点において、こうした活動の継続が寄与することを確認する機会となった。</p>
実施経費	0円
実施・成果に係る 印刷物等	<p>■実施に係る印刷物等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.献立表 2.メニュー、レシピ 3.減塩食の大切さに関するレクチャー時に使用した PowerPoint データ 4.アンケート <p>■成果に係る印刷物等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.アンケート結果

担当教員	学部・職名・氏名	家政学部管理栄養学科 准教授・渡邊 喜弘
事務担当者	所属・職名・氏名	学長室・課長・安田 馨
	電話番号	082-878-9980
	Fax	082-878-8408
	e-mail	gakuchositu@yasuda-u.ac.jp

実施内容の写真
<p>平成28年12月1日(木)</p> <p>第5回「グローバルキッチンプロジェクト」学内説明会</p> 

平成 28 年12月 10 日(土)

第 5 回「グローバルキッチンプロジェクト」学内実習室での試作

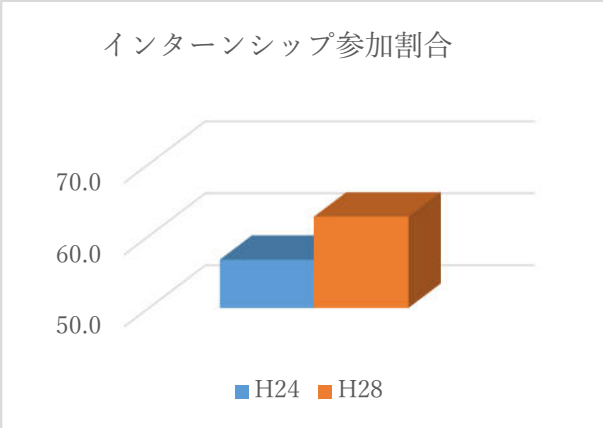
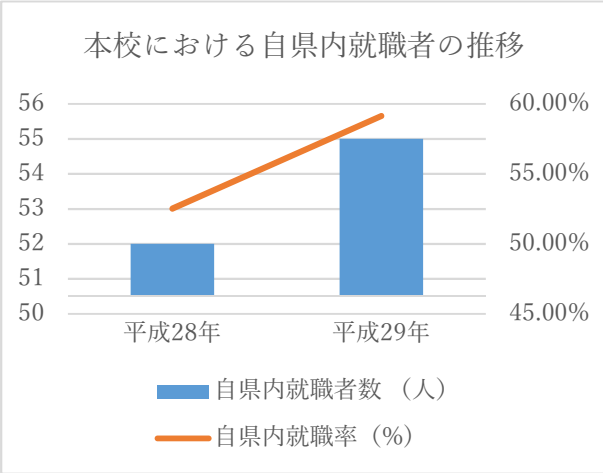


平成 28 年12月 17 日(土)

第 5 回「グローバルキッチンプロジェクト」



学校名	広島商船高等専門学校
事業名 (プロジェクト名)	平成 28 年度 広島商船高等専門学校 企業研究会
実施対象地域	大崎上島町(全域), 竹原市(竹原地区・忠海地区)
事業概要	<p>本研究会は学生の就職活動のスタートの号砲として実施しているもので、就職活動を始めにあたっての心構え・社会人として必要な資質を学び、具体的に企業の担当者が何を求めているのか、どういった企業内容が自分にマッチングするのかを考え、就職活動の前提となるインターンシップだけでなく、その他の活動にあたって自らも主体的に動き、未来を切り開くことができるよう自主的な行動を促すことを目的に実施している。</p> <p>平成 28 年度の企業研究会は、平成 29 年 2 月 17 日(金)に本校視聴覚教室等において、第 1 部、第 2 部のプログラムを実施した。</p> <p>第 1 部では、人材育成を中心に企業別説明会などの事業を展開するメディア総研株式会社様から「就職活動を始めにあたって」と題して、参加学生がこれから就職活動を始めにあたっての心構え等をご講演いただき、第 2 部では企業説明会として、県内企業を中心に各ブースで個別懇談を実施した。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	広島県内企業 外 多数
実施内容 (実績)	<p>企業研究会の参加学生は本校を中心とした 90 名で、近隣の県立大崎海星・県立竹原・県立忠海高等学校にも呼びかけて参加者を募った。</p> <p>第 1 部のメディア総研株式会社様からの「就職活動を始めにあたって」と題した講演では参加学生がこれから就職活動を始めにあたっての心構え等を学び、社会人としての基礎を学んだ。</p> <p>また、第 2 部の企業説明会では県内企業を中心に 15 社の参加があり、参加学生は各企業の方から会社概要や仕事内容・求める人材などの説明を受け、積極的に質問等を行っていた。</p> <p>本研究会の目的である就職活動のスタートの号砲として、就職活動を始めにあたっての心構え・社会人として必要な資質を学び、具体的に企業の担当者が何を求めているのか、どういった企業内容が自分にマッチングするのかを考え、就職活動の前提となるインターンシップだけでなく、その他の活動にあたって自らも主体的に動き、未来を切り開くことができるよう自主的な行動を促すことにつながった。</p>

実施により 得られた成果	<p>企業研究会を実施した結果、インターンシップに参加した学生の割合はCOC採択年度前である平成24年度56.7%から平成28年度には62.7%に向上している。</p>  <p>そのなかでも女子学生の在籍率が高く、特に地元への就職率の向上に力を入れている流通情報工学科においては、平成28年度は、県内外を問わず学科全体の82.5%の学生がインターンシップを経験し、そのうち県内企業の割合が約4割を占めている。</p>  <p>また、平成28年度卒業生の本校における自県内就職率は52.2%(H28.4)から59.1%(H29.4)と6割近くに上昇している。</p> <p>近年は新卒採用の売り手市場が続いているため、首都圏を中心とした就職が多いが、潜在的な県内就職者のニーズは実際の県内就職者数よりも高い傾向にあるものと思われる。</p> <p>就職活動開始時期に学生の就業意識の向上を図ることで、地域社会に活躍する人材として県内企業に就職者を多数輩出している。</p>	
	実施経費	992,133 円
実施・成果に係る印刷物等	広島商船高等専門学校「インターンシップ参加割合・自県内就職者数の推移」	
担当教員	学部・職名・氏名	電子制御工学科・教授・副校長・松島 勇雄
事務担当者	所属・職名・氏名	総務課・課長補佐・増本 浩司
	電話番号	0846-67-3179
	Fax	0846-67-3009
	e-mail	koho@hiroshima-cmt.ac.jp

実施内容の写真



第1部:企業講演会の様子
(メディア総研株式会社)



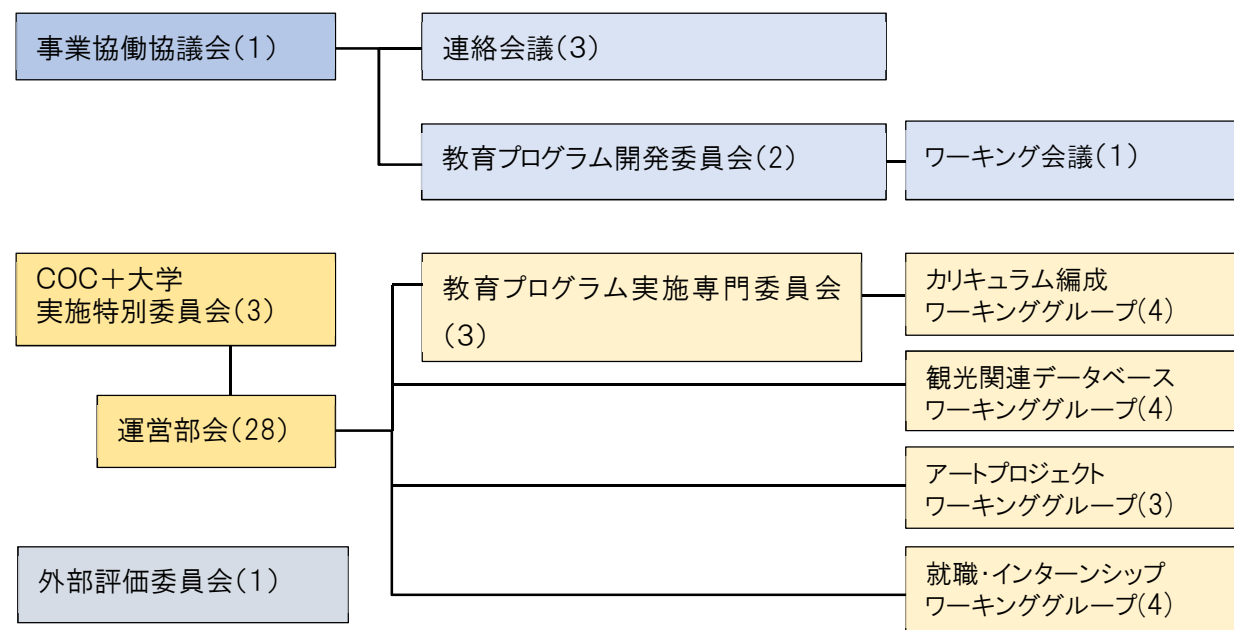
第2部:企業説明会の様子 熱心に企業の説明に聞き入る学生



第2部:企業説明会の様子 盛会の内に終了しました。

■資料-4 委員会等の開催状況一覧（平成28年度）

委員会等の実施状況（ ）は開催回数



1 観光振興による地域創生に向けた人材育成事業協働協議会

実施概要	
実施日時	平成29年1月24日(火)13:30~14:45
実施場所	広島国際会議場 地下2階 ダリヤ①
議 事	1 平成27年度広島市立大学 COC+の外部評価について(報告) 2 広島市立大学 COC+平成28年度事業の実施状況 3 広島市立大学 COC+平成29年度事業計画(案)

2 事業協働協議会 連絡会議

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年8月8日(月)13:30~15:00
	実施場所	広島市立大学 本部棟 第1会議室
	議 事	(1)事業協働地域への就職率の算出方法について (2)参加大学の COC+予算(教育プログラム)の執行状況や見込みについて (3)その他(COC+ホームページの開設など)

第2回	実施日時	平成28年11月29日(火)15:30~17:00
	実施場所	サテライトキャンパス セミナールーム1 (広島市中区大手町四丁目1番1号 大手町平和ビル9階)
第3回	議 事	(1)参加校における平成28年度COC+事業の実施状況について (2)参加校における平成29年度COC+事業計画の作成について
	報 告	(1)広島市立大学全学共通系科目広島科目「地域課題演習」の実施について (2)広島市立大学COC+宮島教育研究施設の開設について (3)COC+参加校間の単位互換について (4)「平成28年度観光振興による地域創生に向けた人材育成事業協働協議会」、「フォーラム2017」及び「情報交換会」について
出席者	実施日時	平成29年1月20日(金)15:00~16:30
	実施場所	広島市立大学 本部棟 会議室1
	議 事	1 広島市立大学 COC+平成28年度事業の実施状況 2 広島市立大学 COC+平成29年度事業計画(案) 3 広島市立大学 COC+平成29年度参加校による協働研究事業計画について
出席者	広島大学	地域連携部門 部門長 教授 塚本 俊明、 社会産学連携室 社会連携部 社会連携グループ 主査(地域連携担当) 山本 一美
	尾道市立大学	企画広報室・室長 加来 正和、企画広報室 室長補佐 土岸 明博、 主任 森下 育哉
	広島経済大学	教育・学習支援センター 次長 高野 修、主任 西國 真一
	広島工業大学	地域連携推進室 室長 安井 崇、上山 和宏
	広島国際大学	地域連携センター センター長 吉川 眞、課長 沖川 崇、 課員 林賢宏
	広島修道大学	ひろしま未来協創センター 次長 平岡 健、 課長 佐伯 美栄子、課員 植田 安瑛
出席者	安田女子大学	学長室 課長 安田 馨、主事 岩田 りか
	広島商船	電子制御工学科 教授・副校長 松島 勇雄、 総務課企画広報室・企画広報室長 三木 圭介
	高等専門学校	社会連携センター センター次長 豆谷 利宏、特任教授 國本 善平、 特任教授 佐藤 俊雄、特任准教授 吉岡 研一、 特任助教 三上 賢治、特任助教 永留 好子、 技師 坂野 有岐子、特任職員 三好 真貴
出席者	広島市立大学	

3 教育プログラム開発委員会(第2回は連絡会議との合同会議)

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年11月16日(水)15:30~17:00
	実施場所	広島市立大学サテライトキャンパス セミナールーム1
	協議事項	COC+参加校間の単位互換について
	報告	(1) 広島市立大学全学共通系科目広島科目「地域課題演習」の実施について (2) 広島市立大学COC+宮島教育研究施設の開設について
第2回	実施日時	平成29年1月20日(金)15:00~16:30
	実施場所	広島市立大学 本部棟 会議室1
	議事	1 広島市立大学 COC+平成28年度事業の実施状況 2 広島市立大学 COC+平成29年度事業計画(案) 3 広島市立大学 COC+平成29年度参加校による協働研究事業計画について
出席者	広島市立大学	理事(教育・研究担当)・副学長 前川 義春(委員長) 副理事(教務担当) 弘中 哲夫(ワーキング会議グループ長)
	広島大学	副理事(教育支援担当) 原 義孝(副委員長) 社会連携グループ 主査 山本 一美
	尾道市立大学	企画広報室 室長 加来 正和(委員)、主任 森下 育哉
	広島経済大学	学務センター教務課 課長補佐 小池 剛、 教育・生涯学習センター 主任 西國 真一
	広島工業大学	学務部 次長(工学部・電気システム工学科 准教授) 青木 真吾、 学務部 事務員 永野 慎介
	広島国際大学	保健医療学部(教務部) 教授(教務部長) 笛吹 修治(委員)
	広島修道大学	ひろしま未来協創センター 次長 平岡 健、課長 佐伯 美栄子、 課員 植田 安英
	安田女子大学	心理学部 教授・学長補佐 澤田 英三(委員)
	広島商船	電子制御工学科 教授・副校長 松島 勇雄
	高等専門学校	総務課企画広報室・企画広報室長 三木 圭介
	広島市	企画総務局企画調整部 部長 阪谷 幸春
	北広島町	企画課 政策立案室・室長 矢部 芳彦
	中国経済連合会	調査役 三上 満
広島市立大学 (事務局)	社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄、 特任准教授 吉岡 研一、特任助教 永留 好子、 事務局教務グループ 補佐 川谷 卓哉	

4 教育プログラム開発委員会 ワーキング会議

実施概要	
実施日時	平成28年7月28日(木)16:00~17:25
議題	COC+事業参加大学間の単位互換について
出席者	<p>広島大学 教育部 教育推進グループリーダー 長谷川 博文 尾道市立大学 企画広報室 室長 加来 正和 広島経済大学 学務センター・教務課 課長補佐 小池 剛 広島工業大学 学務部 事務部長 猫島 幹爾 広島国際大学 保健医療学部 診療放射線学科(教務部) 教授(教務部長) 笛吹 修治 広島修道大学 ひろしま未来協創センター 次長 平岡 健 安田女子大学 教務部教務課 課長 木村 泰恵 広島商船 電子制御工学科 教授 松島 勇雄 高等専門学校 広島市立大学 情報科学研究科 教務担当副理事(教授) 弘中 哲夫、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、 特任教授 佐藤 俊雄、特任准教授 吉岡 研一</p>

5 COC+大学 実施特別委員会

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年4月27日(水)14:40~15:40
	議事	(1) COC+平成27年度実績報告について (2) COC+平成28年度事業計画について (3) COC+平成28年度教育プログラムについて (4) 今後の事業の進め方等について
第2回	実施日時	平成28年6月15日(水)9:30~10:30
	議事	広島市立大学COC+評価委員会の設置について
第3回	実施日時	平成28年10月5日(水)14:40~16:00
	議事	平成29年度地域課題演習の実施方針について
委員構成	<p>理事長 青木 信之、理事(企画・戦略担当) 若林 真一、 理事(教育・研究担当) 前川 義春、理事(総務・危機管理担当) 塩田 芳丈、 国際学部長 吉田 晴彦、情報科学部長 角田 良明、芸術学部長 南昌伸、 平和研究所長 吉川 元、副理事(社会連携担当) 竹澤 寿幸、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄</p>	

6 運営部会

回数	日程	検討内容
第1回	平成28年4月11日(月)	・事業評価委員会 ・教育プログラム ・観光関連データベース ・サテライト宮島 ・基町プロジェクト ・広報関係 ・COC+全学研修会 ・事業協働協議会
第2回	4月25日(月)	・サテライト宮島 ・COC+事業実施特別委員会の開催
第3回	4月28日(木)	・COC+ホームページ
第4回	5月16日(月)	・COC+外部評価委員会の設置 ・サテライト宮島 ・COC+教育プログラムの進め方
第5回	5月30日(月)	・COC+外部評価委員会 ・サテライト宮島 ・佐藤特任教授の Area25 のヒアリング状況報告 ・カリキュラム編成 WG ・観光関連データベース WG ・ニュースレターの発行計画
第6回	6月13日(月)	・COC+外部評価委員会 ・サテライト宮島 ・COC+ホームページ ・カリキュラム編成 WG
第7回	6月20日(月)	・COC+外部評価委員会 ・自己評価がcの「教育研究プロジェクトの実施計画」 ・単位互換の進め方 ・基町プロジェクト
第8回	7月4日(月)	・COC+外部評価委員会 ・アートプロジェクト実施計画 ・地域課題演習 ・協働協議会「連絡会議」 ・国交省の中国圏広域地方計画 ・基町プロジェクト ・サテライト宮島に関連して ・事業運営部会の開催日の変更
第9回	7月13日(水)	・COC+外部評価委員会 ・地域課題演習 ・COC+全学研修会 ・協働協議会「教育プログラム開発委員会」ワーキング会議 ・サテライト宮島 ・個別の進捗状況 ・事業運営部会の開催
第10回	7月20日(水)	・COC+外部評価委員会 ・地域課題演習と単位互換の進め方について ・協働協議会「教育プログラム開発委員会」 ・就職・インターンシップ担当WG ・ニュースレター3号
第11回	7月27日(水)	・COC+外部評価委員会 ・ワーキング会議と連絡会議の開催 ・連携自治体の観光施策の調査報告 ・宮島伝統産業会館の利用
第12回	8月3日(水)	・COC+外部評価 ・協働協議会 第1回連絡会議 ・サテライト宮島 ・基町プロジェクト ・その他
第13回	8月24日(水)	・地域課題演習 ・単位互換 ・COC+外部評価報告書 ・宮島(因幡邸) ・文科省のCOC+パンフレット ・COC+研修会 ・基町プロジェクト
第14回	8月31日(水)	・地域課題演習 ・グローバルキッチンプロジェクト ・宮島(因幡邸) ・協働協議会の会議 ・基町プロジェクト

第15回	9月14日(水)	・地域課題演習の実施方針案 ・COC+フォーラムの企画
第16回	9月21日(水)	・地域課題演習の実施方針の調整 ・「広島観光学」の構成 ・COC+宮島教育研究施設の準備状況
第17回	9月28日(水)	・単位互換の協議状況 ・COC+宮島教育研究施設 ・COC+実施特別委員会第2回の開催
第18回	10月5日(水)	・COC+フォーラムの基調講演者
第19回	11月2日(水)	・COC+フォローアップ ・協働協議会 ・教育プログラム開発委員会の開催(11/16) ・協働協議会 ・連絡会議の開催(11/29) ・協働協議会 ・フォーラム2017、情報交換会の開催(1/24) ・全学COC+研修会 ・「広島観光学」の履修状況
第20回	11月9日(水)	・観光関連データベース(中間報告)
第21回	11月30日(水)	・11月29日に開催した協働協議会の連絡会議の内容(報告) ・柳井市からのサテライトカレッジ等の依頼
第22回	12月14日(水)	・ニュースレター第4号の構成案 ・柳井市でのサテライト講座 ・第2回全学COC+研修会 ・「地域再生論入門」の講義構成
第23回	平成29年1月4日(水)	・平成28年度第2回全学COC+研修会 ・「地域課題演習」の副担当教員 ・「地域再生論」と「地域再生論入門」の調整 ・参加大学との今後の協働事業の在り方
第24回	1月18日(水)	・協働協議会 ・フォーラムの会議資料、進行、準備状況 ・宮島教育研究施設の通称 ・COC+フォローアップに係る学生へのアンケート
第25回	2月8日(水)	・協働協議会 ・フォーラムの参加者数 ・各校の単位互換提供科目 ・地域課題演習のシラバス、担当教員会議 ・COC+フォローアップに係る学生へのアンケート ・COC+サテライト講座(柳井市)を担当する教員の人選
第26回	2月22日(水)	・平成28年度COC+補助金調書の内容
第27回	3月8日(水)	・平成28年度第2回全学COC+研修会の実施結果 ・地域課題演習の担当教員会議 ・大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会
第28回	3月22日(水)	・観光関連データベースの改修 ・平成28年度大学改革推進等補助金(COC+)実績報告書
構成		理事長・学長 青木 信之 理事(企画・戦略担当) 若林 真一、理事(教育・研究担当) 前川 義春、 理事(総務・危機管理担当) 塩田 芳丈、副理事(社会連携担当) 竹澤 寿幸、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄

7 教育プログラム実施専門委員会

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年7月19日(火)18:00~20:00
	議 事	1 地域課題演習の実施について 2 単位互換について 3 その他
第2回	実施日時	平成28年9月8日(火)9:00~10:30
	議 事	1 地域課題演習の実施について 2 単位互換について 3 その他
第3回	実施日時	平成28年12月21日(水)9:00~10:30
	議 事	1 度「地域課題演習」の副担当教員 2 学部専門教育科目における「地域志向科目」の充実について 3 COC+単位互換事業への提供科目について 4 その他
委員 構成	理事(教育・研究担当) 前川 義春、理事(企画・戦略担当) 若林 真一、 副理事(教務担当) 弘中 哲夫、 国際学部 教授 寺田 英子、情報科学部 教授 中田 明夫、芸術学部 教授 笠原 浩、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄	

8 カリキュラム編成ワーキンググループ

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年5月24日(火)18:00~19:30
	議 題	(1) COC+教育プログラムの進め方について (2) 地域課題演習について
第2回	実施日時	平成28年6月14日(火)9:30~12:00
	議 題	COC+地域課題演習の実施について
第3回	実施日時	平成28年7月12日(火)9:00~11:30
	議 題	1 COC+地域課題演習の実施について 2 単位互換について
第4回	実施日時	平成28年8月25日(木)16:20~18:00
	議 題	1 COC+地域課題演習テーマについて 2 地域課題演習実施案について 3 まとめ
委員 構成	理事(教育・研究担当) 前川 義春、 副理事(教務担当) 弘中 哲夫、副理事(社会連携担当) 竹澤 寿幸、	

	国際学部 准教授 山根 史博、芸術学部 講師 中村 圭、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄
--	--

9 観光関連データベースワーキンググループ

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年5月31日(火)10:40~12:15
	議 題	1. COC+事業と観光関連データベースについて 2. 各観光関連情報について(比較、協議項目について) 3. 平成27年度構築の市立大学観光関連データベース説明 4. 平成28年度に収集する観光関連データについて 5. その他、連絡事項
第2回	実施日時	平成28年6月29日(水曜日)10:40~12:20
	議 題	1. 実データ格納方法の変更と正式ドメイン版への移設完了報告 2. 観光関連登録データの登録素材(開始版)について 3. 統計関連データの登録素材や登録方法について 4. 観光関連データベース内の分類項目について 5. 観光関連データベース内の各コンテンツのキーワード項目について 6. その他、連絡事項
第3回	実施日時	平成28年7月14日(木曜日)14:40~16:10
	議 題	1. 今回追加導入頂いた Web API モジュールについて(SRA 様) 2. 観光関連データベース内の TB と関連属性について(SRA 様との協議) 3. 収集する統計関連データの格納方法について(趣旨と技術確認) 4. その他(SRA 様への今後の依頼事項と残作業について等)
第4回	実施日時	平成28年12月22日(木曜日)13:00~14:30
	議 題	1. 執行部への中間報告内容と現在の進捗状況(報告ベース) 2. 作業予定を含めた登録予定のコンテンツについて 3. 来年度に向けた改修内容(追加修正)案について 4. クラウド向けの情報セキュリティと運用アカウントについて 5. その他、連絡事項
委員 構成	副理事(社会連携担当) 竹澤 寿幸、 国際学部 准教授 山根 史博、講師 李 玲、 情報科学部 准教授 難波 英嗣、准教授 田村 慶一、 芸術学部 教授 笠原 浩、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄、 准教授 吉岡 研一、特任助教 植松 敏美 広島経済大学 経済学部 ビジネス情報学科 助教 石野亜耶	

10 アートプロジェクトワーキンググループ

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年4月7日(木)10:00~12:00
	実施場所	広島市立大学 芸術学部棟2階会議室
	議題	(1) 宮島に設置予定の教育研究活動拠点「仮称:サテライト宮島」の活用方法 (2) 平成28年度就航予定の新規観光船デザインプロジェクトの進め方 (3) その他
第2回	実施日時	平成28年6月1日(木)10:00~12:00
	実施場所	広島市立大学 芸術学部棟2階会議室
	議題	(1) COC+特定研究費採択結果 (2) 宮島に設置予定の教育研究活動拠点「仮称:サテライト宮島」進捗状況 (3) 各アートプロジェクトのスケジュール (4) その他
第3回	実施日時	平成28年12月7日(月)16:20~18:00
	実施場所	広島市立大学 芸術学部棟2階会議室
	議題	(1) 度 COC+アートプロジェクト実施計画(案) (2) 各専攻企画内容提出スケジュール (3) その他
委員構成	芸術学部長 南 昌伸、理事(教育・研究担当) 前川 義春、 芸術学部副学部長 伊東 敏光、副理事(教務担当) 弘中 哲夫、 国際学部 准教授 山根 史博、芸術学部 教授 吉田 幸弘、准教授 大塚 智嗣、 准教授 前田 力、講師 中村 圭、講師 釣谷 幸輝、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、特任教授 佐藤 俊雄、 准教授 吉岡 研一、特任助教 三上 賢治	

11 就職・インターンシップワーキンググループ

回数	実施概要	
第1回	実施日時	平成28年8月3日(水)9:00~10:30
	議事	【説明】 (1)インターンシップの拡大に向けた施策について 岩手県立大学の事例と本学の状況 (2)本学における企業インターンシップの現状について 【審議事項】 COC+事業の協働機関におけるインターンシップ依頼先(案)
第2回	実施日時	平成28年10月27日(木)9:00~10:30
	議題	(1) 平成28年度インターンシップ参加状況について (2) 平成28年度企業インターンシップ参加後の企業訪問について
第3回	実施日時	平成28年12月13日(火)9:00~10:30
	議題	大学・企業それぞれのインターンシップへの期待や理想について意見交換
第4回	実施日時	平成29年2月24日(金)9:00~10:30
	議題	29年度方針案のまとめ
委員構成	理事(総務・危機管理担当) 塩田 芳丈、 副理事(入学試験・就職担当) 井上 智生、副理事(社会連携担当) 竹澤 寿幸、 社会連携センター 特任教授 國本 善平、准教授 吉岡 研一	

■資料－5 外部評価結果（平成27年度事業に対する評価）

公立大学法人広島市立大学 COC+事業実施計画に関する外部評価の方法及び基準

1 法人による自己評価

文部科学省に提出したCOC+事業実施計画に基づき、4つの取組の16の事項について以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、外部評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	計画を大きく上回った実績である。
a	計画を上回った実績である。
b	計画に沿った実績である。
c	計画を下回った実績である。
d	計画を大きく下回った実績である。

2 外部評価委員による評価

(1) 取組項目ごとの評価

法人による自己評価を踏まえ、4つの取組ごとに、以下の5段階により評価し、その評価を以下の評点に換算する。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	計画を大きく上回った実績である。	5
A	計画を上回った実績である。	4
B	計画に沿った実績である。	3
C	計画を下回った実績である。	2

(2) 総合評価

取組項目ごとに以下の評価比率を配分し、取組項目の評点を加重平均(評点×評価比率を合計)した結果を基に評価する。

取組項目	評価比率
1 教育カリキュラムの整備・推進	35%
2 観光データベースの構築と活用	20%
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	35%
4 事業運営(実施体制の整備等)	10%

評価の基準値	総合評価の記号等	
4.5 < X	S	計画を大きく上回った実績を挙げている。
3.5 < X ≤ 4.5	A	計画を上回った実績を挙げている。
2.5 < X ≤ 3.5	B	計画に沿った実績となっている。
1.5 < X ≤ 2.5	C	計画を下回った実績となっている。
X ≤ 1.5	D	計画を大きく下回った実績となっている。

公立大学法人広島市立大学 平成27年度COC+事業実施計画に関する評価

総合評価

評価の記号 B: 計画に沿った実績となっている。
<p>総評</p> <p>広島市立大学によるCOC+は、広島広域都市圏及び尾道市の課題である人口流出を、観光資源の活用により改善することを目指し、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的に、文部科学省に平成27年7月1日に申請し、平成27年9月28日に採択を受けた。</p> <p>文部科学省に提出している「平成27年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書」に記載した事業実施計画に関して、以下のとおり主な取組状況を確認・評価するとともに、今後の事業の十全な進展のために考慮すべき観点を記述する。</p> <p>「教育カリキュラムの整備・推進」については、平成28年度入学生を対象とした学内での検討体制を整え、平成28年度の教育課程表を作成し、地域志向の新規科目を導入するとともに既存科目の充実を行った。また、他大学、自治体、経済団体等の事業協働機関との協議の場を設けて単位互換に関する意見交換を行った。キックオフ・フォーラムを開催し、講演とCOC+の概要説明を通して、事業推進への意識の共有を図った。学内で開催した教職員に対する研修会については、教職員の事業参加を促した。研修参加者に実施したアンケートを分析して今後活かすことが望まれる。取組項目については計画どおり実施された。</p> <p>「観光関連データベースの構築と活用」については、データベース構築のための検討体制を整えて、仕様の策定と収集する情報に関する検討を行った。仕様については授業での活用を視野に入れたものとし、情報収集については自治体に対して積極的な提供を依頼した。データベースの運用開始は平成28年3月に予定していたが、運用を多少遅らせても試験的な活用結果を見極</p>

めることが必要であると考え、教員による試験的な活用期間を設けた。運用の開始に至っておらず、収集するデータ量が多大になることが予想され、段階的な公開・運用も検討されたい。取組項目については概ね計画に沿って実施された。

「観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進」については、平成27年度は、広島市立大学を中心に平成28年度から実施するアートプロジェクトについて、内容の検討や実施候補地を抽出しプロジェクトの特定を行った。廿日市市宮島に設置する教育活動拠点施設の候補地を絞り込み、歴史のある町家に決定するとともに、学内の競争的な研究資金の活用による研究事業を新設し募集した。参加大学による教育研究事業の実施計画の策定については、限られた期間内に参加大学間の事業の調整に至らず、各大学での検討に止まった。地域をフィールドとし、学生の地域の課題解決に資する能力を養成する上で重要な位置づけにあり、拙速を避けながらも、今後とも十分に協議・調整を行って、出来るだけ早期に計画を作成することが望まれる。取組項目については概ね計画に沿って実施された。

「事業運営(実施体制の整備等)」については、事業協働機関が、事業の申請時の、大学、自治体、経済団体・企業等57機関から、その後2大学、7市町の参加を求め、最終的に66機関の体制となった。事業を担当する教員については、事業の調整担当、教育研究担当をはじめ5教員の採用及び内定を行った。専用ホームページの開設は年度終了後となったが、取組項目については概ね計画に沿って実施された。

以上、事業初年度の平成27年度は、文部科学省の採択から限られた期間であったが、事業の実施体制を速やかに整えるなど、取組項目の全般については概ね計画に沿って推進され、平成28年度以降の事業運営の基盤は作られたと言える。

平成27年度の取組はこの事業の端緒であり、今後、参加自治体、大学、企業等が協働していかにより有機的に事業が展開されるか、学生の地域への関心や意識をいかに高めるかが、COC+事業の理念の実現にとって重要と考える。このため、今後の取組にあたっては、以下の点に特に留意して推進することが望まれる。

- 1 実績については、表面的な数字などの結果だけでなく、事業の目的に照らして成果がどのよう
に得られたかについても考慮すること。
- 2 常にPDCAサイクルを念頭に置き、その運用によって取組に対する改善の努力を行うこと。
- 3 事業を取り巻く状況等の変化に対応して、適宜適切な計画変更を行うなど、柔軟な事業運営
に努めること。
- 4 地域を巻き込んでCOC+事業を効果的に推進するために、関係者の情報共有や広報につい
て、その重要性を認識し積極的に展開すること。

以上

総合評価の評点

項目	評点(α) 委員の平均	評価比率 (β)	α × β × 1/100	総合評価 (S~D)
1 教育カリキュラムの整備推進	3.8 (A)	35%	1.33	/
2 観光データベースの構築と活用	2.8 (B)	20%	0.56	
3 観光振興を目的とした教育研究事業の 立案・推進	2.6 (B)	35%	0.91	
4 事業運営(実施体制の整備)	3.0 (B)	10%	0.30	
計	/	/	合計=3.1	記号 B

全体評価の記号 4.5<X:S、3.5<X≤4.5:A、2.5<X≤3.5:B、1.5<X≤2.5:C、X≤1.5:D

(X=α × β × 1/100)

取組項目別評価

27 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学による自己評価		外部評価委員会の評価	
		記号	評価理由等	記号(SABCD)	
取組 1 教育カリキュラムの整備・推進	①	【教育プログラムと 28 年度教育課程表の作成】 10～12 月 本学内に COC+教育プログラム実施専門委員会を設置・開催し、COC+教育プログラムを策定し、平成 28 年度の教育課程表(案)を作成する。	a	COC+教育プログラムを策定するため、10 月に COC+教育プログラム実施専門委員会とカリキュラム編成ワーキンググループ(以下 WG)を設置した。 10～11 月に、カリキュラム編成 WG を 3 回開催し、教育プログラム案を作成、12～1 月に実施専門委員会を 3 回開催し、COC+教育プログラムと平成 28 年度入学生に適用する教育課程表を作成した。 さらに、その内容として、1・2 年次の全学共通系科目に 2 つの新規科目(「広島の観光学」「地域再生論入門」)を設け、新たな担当教員の採用を決定し、より深く地域の魅力と課題を学ぶ講義内容とした。また学部専門科目を含めた地域貢献に関するカリキュラムを、全学共通の「地域貢献特定プログラム」として設定し、学生の学修意欲を高めることで教員の共通認識を得た。 以上のことから、「a」と評価した。	A
	②	【参加大学と単位互換の実施について協議】 1 月 COC+教育プログラム開発委員会を設置・開催し、申請大学と参加大学間で共通カリキュラム及び単位互換の実施について協議する。	b	2 月に第 1 回 COC+事業教育プログラム開発委員会を、本学サテライトキャンパスで開催した。(参加者は本学及び参加大学等 8 校、自治体の代表 4 市町、2 つの経済団体。)本学の平成 28 年度入学生に適用する COC+教育プログラム(案)の内容に関する意見交換や単位互換等についての検討を行った。参加大学から、単位互換が可能な教育プログラムや実施方法についての具体的な意見が出された。また、ワーキング会議を設けて今後の取組を検討することとした。 また自治体や経済団体からは学生が協働地域や企業を訪れて実施することを想定している演習科目やインターンシップについて、積極的に協力する旨の合意がなされた。 以上のことから、「b」と評価した。	
	③	【全学 COC+研修会の開催】 3 月 本学の全学教職員を対象とした本事業の実施に関する FD(ファカルティ・ディベロップメント)として、全学 COC+研修会を開催する。	b	3 月に本学の教職員を対象に、平成 27 年度 FD・SD(スタッフ・ディベロップメント)「全学 COC+研修会」(90 分)を開催し、参加者は 68 名であった。 広島大学の教員(4 名)を講師に招き、地域貢献人材の育成に取り組んでいる広島大学の地(知)の拠点整備事業「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」(COC 事業)についての講演を実施した。引き続き、本学国際学部が取り組んでいる、学生による地域貢献の実践例を報告し、COC+事業における地域貢献人材育成プログラムの説明を行った。 以上のことから、「b」と評価した。	
	④	【キックオフ・フォーラムの開催】 3 月 COC+参加大学との共催により、COC+キックオフ・フォーラムを開催する。	a	3 月 5 日、広島市内で「広島市立大学 COC+キックオフ・フォーラム 2016」を開催した。200 名の参加予定に対し 220 名の参加者があり、地域の観光ポテンシャルを活かしたこれからの地域づくりや人づくりをテーマに、4 名(日本旅行業協会中四国支部事務局長、広島経済同友会筆頭代表幹事、NPO 法人ひろしまジン大学代表理事、公益財団法人みやうち芸術文化振興財団学芸員)の講演、発表があり、本学から COC+による地域貢献人材育成事業の内容とそのスタートを告げる説明を行った。 さらに、フォーラム終了後の交流会には約 90 名の参加があり、本学学生や教員から地域連携の活動成果を発表し、参加者から事業に向けた期待等が表明され、交流を深めるとともに、大学間や地域との協働意識を高めることができた。 以上のことから、「a」と評価した。	

27年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号(SABCD)
取組2 観光関連データベースの構築と活用	事項	【観光データベースの仕様の作成】		B
	⑤	10～3月 観光データベースの構築と活用のプロジェクトチームを立ち上げ(10月)、観光関連情報の収集とデータベースの仕様策定を行う。	b 10月に観光関連データベースWGを立ち上げ、月4回データベースの仕様や収集する情報について検討した。これらの検討を踏まえて、「観光情報学」などの授業で学生の活用が期待できる仕様を策定した。以上のことから、「b」と評価した。	
	⑥	【協働機関に情報の提供依頼】 11月 事業協働機関への観光関連情報の提供を依頼し、以降、随時追加提供を依頼する。	b 観光関連データベースの構築に向けて、7月の広島広域都市圏首長会議や10月の広島広域都市圏担当課長会議等において、自治体等に観光関連情報の提供を依頼した。以後、「広島観光学」などの授業で役立つ情報の提供を依頼している。以上のことから、「b」と評価した。	
	⑦	【システムの構築】 12月 観光関連データベースの仕様を決定し、業者にシステム構築を依頼する。	b 上記の⑤で策定した仕様に基づき、業者にシステム構築を委託し、平成28年3月末に観光関連データベースの基本システムを構築した。以上のことから、「b」と評価した。	
⑧	【システムの運用開始】 3月 観光関連データベースシステムの運用を開始する。事業協働機関へ周知する。	c 出来上がった基本システムについて、サンプルデータを入れて運用に問題がないかどうか可否判断を行うなど、試験期間を設ける必要があり、スケジュールの見直しを行った。以上のことから、「c」と評価した。		
取組3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	⑨	【COC+研究枠の設定と学内公募】 1月 学内競争的研究資金「特定研究費」の区分として新たに「COC+研究事業」枠を設定し、学内公募を開始する。また、本学が社会貢献事業として実施している「市政貢献プロジェクト」等にも新たに「COC+研究事業」枠を設け、プロジェクトテーマを学内公募する。	b COC+研究事業の学内競争的研究資金は、補助対象経費外で本学が設け、平成28年1月から3月にかけて学内公募を行った。また、本学の既存事業である社会連携プロジェクト事業についてもCOC+研究事業の枠を設け、平成28年3月から4月にかけて学内公募を行った。(いずれも審査は平成28年4月～5月)以上のことから、「b」と評価した。	B
	⑩	【アートプロジェクトの実施計画の策定】 11～2月 本事業の実施年度(平成27年度～平成31年度)に本学が実施を予定するアートプロジェクトの実施計画を策定する。	b アートプロジェクトWGの検討を重ね、事業協働機関と調整を図りながら、プロジェクト内容の検討や実施候補地案を抽出し、実施する計画内容を特定した。具体的には、廿日市市宮島に教育研究活動拠点を設けてアートプロジェクトを展開、広島市中区基町の本学教育拠点「M98」でのコミュニティーデザインプロジェクト、広島市内中心部での新規観光船へのグラフィティーデザインプロジェクトなどを内容としている。以上のことから、「b」と評価した。	
	⑪	【教育研究プロジェクトの実施計画の策定】 11～2月 COC+参加大学が、本事業の実施年度に予定している観光振興を目的とした教育研究プロジェクト(本学との共同プロジェクトを含む)の実施計画を策定する。	c 参加大学による教育研究事業については、各大学において該当事業の抽出を行い、大学間協議において取りまとめを行うこととしていたが、実施計画の策定までには至らなかった。以上のことから、「c」と評価した。	
	⑫	【宮島への教育研究活動拠点の設置等】 1～3月 本学が広島市中区基町地区に設置している教育拠点「M98」において、教育研究事業の実施準備をするとともに、廿日市市宮島に教育研究拠点(仮称:「サテライト宮島」)を設置する。	b 教育拠点「M98」は、広島市中区基町の大規模集合住宅地域に「学びの場」、「交流の場」、「創造の場」を作ることを通じて、文化芸術活動を行い、若者など新しい交流人口を増加させ、将来的には、基町で若者が住み、多彩に活動することを目指している。「M98」を拠点とした基町プロジェクトとして、平成28年度に実施するコミュニティーデザインプロジェクトや「もとまちカフェ」、写真展の開催などの諸準備を行った。また、廿日市市宮島の教育研究活動拠点(仮称:「サテライト宮島」)については、いくつかの候補地の中から絞り込みを行い、宮島の歴史的な町家のひとつを拠点とすることを決定した。以上のことから、「b」と評価した。	

27年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価	
		記号	評価理由等	記号(SABCD)	
取組4 事業運営 (実施体制の整備等)	⑬	【ホームページとニュースレターによる広報】 11月～3月 本事業の広報として、大学ホームページにCOC+事業の専用ページを開設し(11月)、適宜、情報を更新する。ニュースレターを2回発行する(12月、3月)。	b	専用ホームページの基本構成やデザインを3月までに終えた。開設は年度終了後となったが、暫定的な対応として、本学ホームページにおいて、COC+の採択、事業協働協議会の設置、協働協議会の開催、キックオフ・フォーラムの開催等について掲載し、事業の広報に努めた。 COC+ニュースレターは平成28年2月に第1号、3月に第2号を発行(各3,000部)・配布した。 以上のことから、「b」と評価した。	B
	⑭	【協働協議会の開催と機関の拡大】 12月 COC+事業協働地域協議会を開催する。協議会において、本事業への協力・連携機関の拡大について協議する。	a	平成27年9月において、本事業への参加を表明した機関は、6大学、17市町であったが、同年12月に開催した第1回事業協働協議会において、事業協働機関の拡充について協議し、呼びかけに応じて大学等2校(広島修道大学、広島商船高等専門学校)、自治体7町(大崎上島町、世羅町、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町)の参加があり、最終的に8大学等、24市町の協力を得た。平成28年3月に事業協働機関の同意書および協定書を文部科学省に提出した。 以上のことから、「a」と評価した。	
	⑮	【担当する教員等の採用】 1月 COC+推進コーディネーター2名、教育研究担当特任講師1名、事業協働地域調整担当特任助教1名、観光データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト推進員1名、臨時職員2名を採用する。	b	年度の中途での採用活動となったため、適任者の人選に日時を要したが、1月にアートプロジェクト特任助教、3月に観光データベース担当特任助教を採用し、3月末までにCOC+特任教授2名及び特任准教授1名の採用を内定した。 以上のことから、「b」と評価した。	
	⑯	【評価委員会による評価の実施】 3月 COC+外部評価委員会を開催し、本事業の年度評価を実施する。年度報告書を作成し公表する。	b	COC+外部評価委員会における事業評価については、当該年度の終了後に事業の取りまとめができた段階で実施することとし、平成27年度は外部評価委員会の設置要綱案の作成などの準備を行った。平成27年度の事業終了後、年度報告書を作成した。 以上のことから、「b」と評価した。	

広島市立大学
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

平成 28 年度 事業報告書

平成 29 年(2017 年)5月

編集・発行 公立大学法人 広島市立大学 社会連携センター
広島市安佐南区大塚東 3-4-1 〒731-3194
Tel 082-830-1842 Fax 082-830-1705
URL <http://www.cocplus-hiroshima-cu.com>
e-mail shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp

広島・山口
Area25

広島・山口
Area25

COC+ REPORT/2016